



初秋の乳牛飼養管理と草地管理について

□乳牛の飼養管理

暑熱ストレスの影響が出始める季節になってきます。良好な飼養環境を保つとともに、乳牛を十分観察しましょう。

○繁殖管理

初秋は、暑熱時に授精できなかった牛の発情、夏に授精した牛の再発、暑熱の影響による発情微弱などが想定されます。発情を見逃さない対策をこころがけましょう。

- ✓ 発情予定牛をリストアップし、繁殖情報を作業員全員で共有する。
- ✓ 発情発見のための時間を作り、観察時間を増やす。
- ✓ 受精後は、早期妊娠鑑定を行い、不受胎牛を確定し、早期授精につなげる。

○サルモネラ症の予防

サルモネラ症は、夏の疲れが出る秋に発症する事例が多くみられるので注意しましょう。

- ✓ 農場敷地や畜舎への入口に消毒帯や踏み込み槽を設置する。
- ✓ 防鳥ネットなどにより、鳥獣侵入防止対策を徹底する。
- ✓ 飼槽や給水施設を衛生的に保つ。
- ✓ 栄養管理や採食量を高める管理を行い、乳牛の免疫力低下を防止する。

□石灰資材の施用について

草地の適正な pH は 5.5~6.5 とされています。
より健全な草地維持のためには、pH6.0 以上を保ちましょう。

石灰資材の散布量の目安
炭カル換算で
毎年 30~50kg/10a

土壤 pH の詳しい情報は HP で！

当センターHP→技術情報→乳牛・飼料
作物ほか→土壤 pH と肥料の吸収率



←QR コードから
も閲覧できます

HP は「宗谷農業改良普及センター」で
検索、または QR コードからどうぞ！



□今年産の粗飼料給与開始に向けて

今年収穫した粗飼料を給与する際は、粗飼料分析を行い、分析結果に合わせた飼料給与を行いましょう。